



ロータリーは機会の扉を開く

2020~2021 RI.2760地区

瀬戸ロータリークラブ会報

2020年10月7日発行 第2766号

本日のプログラム

2020年10月7日(水)

通算第2943 回例会

本年度 第 10 回

場所： 瀬戸商工会議所

例会次第

- ・開会点鐘
- ・「君が代」「奉仕の理想」
- ・出席状況
- ・会長挨拶
- ・行事
- ・誕生日・結婚記念日祝福
- ・幹事報告
- ・委員会報告/その他の報告
- ・卓話

愛知県立芸術大学 美術学部陶磁専攻
教授 長井 千春様

「愛知県立芸術大学陶磁専攻について」
2020 学年度米山奨学生 イ・チェリム様
「ポートフォリオ(portfolio)」



第2942回例会挨拶 会長 松村晋也君

本日、瀬戸ロータリー2942 回の例会でございます。本日のゲストをご紹介します。瀬戸市役所経営戦略部情報政策課課長梶田耕平様、係長岡田克也様でございます。後程、昨年行われました瀬戸コンピューターグラフィックスアワードの継続事業として2月27日に行われます内容についてご説明いただきたいと思います。さて今日は9月最後の例会となります。私は以前、関東大震災のお話をさせていただきました。昔から日本では8月、9月が台風シーズンでしたが、今は春先から冬に至るまで台風が昔と比べて多く発生するようになりました。そして一つ一つの台風が大きくなり、またそれに伴う風雨により甚大な被害が出るようになりました。九州の豪雨災害はまだ記憶に新しいところであります。日本は災害列島といわれ、特にこの9月は自然災害が多い月でもあります。これはひとえに地球温暖化による異常気象というもので、日本のみならず世界的にも問題となっております。問題というのは環境被害、環境汚染です。今期のボルガー・クナーク会長は若い人に対しての理解が非常に高く、会員増強、事業するにあたって、若い人は行動力があり、敏感で柔軟性があるので力を借りますよ、と言ってあります。その時に環境をテーマにする取り組みやすいですよ、と仰っております。先程言いました地球規模の異常気象というのは昨年オーストラリアで森林火災がありました。新しいところでは、アメリカのカリフォルニア州の森林火災で、かなりの面積が焼失したと言われており、これも異常乾燥に自然発火で起きたそうです。よく言われる永久凍土が溶け出し、二酸化炭素が排出さ

れ、それが地球温暖化の影響になっていると言われ、氷河も凄まじい勢いで溶け出し、海水位が上がることに怯えています。あとはプラスチックの問題で、小さくなって海に辿り着いたマイクロプラスチックが魚類を死滅させるとか、大きいウミガメが食べて消化不良になっていたなど色々なことが言われております。こういったプラスチック問題に日本では7月1日からレジ袋が有料化されました。しかし港区にありますプラスチック償却施設の発表ではレジ袋がプラスチックごみに占める割合は2%くらいだそうです。むしろ今問題なのはコロナ以降に増えたテイクアウトで出るプラスチックごみが一気に増え、3月では例年の5倍、4月では7倍、5月で11倍に増えたそうです。むしろこの方が問題であると言われております。あとは個々に、例えばレジ袋をマイバッグにする、マイ箸、マイスプーン、マイボトルというものが、そのうちロータリーでもやっつけていかなければいけないかもしれません。ロータリーでは社会奉仕事業の中に環境問題のテーマがあります。そこにあらゆる種類の奉仕活動が載っております。皆様、そういう場合は目を通していただきたいと思います。梶野年度の時にはRIの会長が世界の120万の会員に対して一人1本の植樹をすすめ、環境問題として非常に素晴らしい取り組みだと思えます。世界的に我々ロータリーが環境問題に大いに取り組んでいるというアピールになったのではないかと改めて思うわけでありませぬ。以上、環境問題とロータリーについてお話しさせていただきました。

前回例会 記録

2020年9月30日 第2942 回例会

- ・出席報告 会員数 55 人中出席 38 人
出席率 69.09%
- ・行事 ・R.Y.C.G.A.の状況報告
・細則変更
- ・本人誕生日 増岡錦也様 加藤眞言君
- ・ご夫人誕生日 増岡錦也様ご夫人容子様
- ・卓話 青山 稔君
「コロナ禍における
米山帰国困難者への対応」

例会予定

<<<<10月14日(水)>>>>

パスト会長 平松 啓君
「おおい浮ぶまにに」
パスト会長 寺田 悟君
「私とロータリー」

<<<<10月21日(水)>>>>

休会

<<<<10月27日(水)>>>>

澤田武憲 君
「新会員の卓話」

例会変更のお知らせ

2020年10月

13 火	名古屋城北	移動例会【サイン受付なし】	22 木	江南	江南商工会議所1Fロビー
	愛知長久手	移動例会【サイン受付なし】	23 金	春日井	ホテルプラザ勝川
15 木	江南	規定休会【サイン受付なし】	27 火	岩倉	移動例会【サイン受付なし】
20 火	犬山	移動例会/同時刻開催【サイン受付なし】		愛知長久手	移動例会【サイン受付なし】
	岩倉	ガバナー公式訪問【サイン受付なし】	30 金	尾張旭	休会【サイン受付なし】
	名古屋城北	休会【サイン受付なし】			

青山 稔君

「コロナ禍における米山帰国困難者への対応」



皆さんこんにちは。本年度瀬戸 RC プログラム委員長兼任、米山奨学委員の青山稔です。今日は瀬戸 RC 史上初の YouTube 卓話をさせていただきます。新型コロナウイルス拡散防止の観点から、対面の例会が開きにくい場合を想定し、どんな例会が出来るか、皆で知恵を絞りながら色々試してみたいという会長幹事の意向から今回は、短縮例会というものを試みており、卓話は事前に録画したものを YouTube で皆さんに見て頂くという、初の試みです。

世間では新型コロナウイルスが猛威を振るい大変な事になっています。我々の周りでも生活環境が大きく様変わりしています。ロータリークラブ活動にしても例会のあり方など各クラブいろいろ模索されている状況であると思います。今後襲来するかもしれない第三波などを考えてみますと、本当にこれから例会が出来るのかと不安になってしまいこともあります。瀬戸 RC も柔

軟に対応できる術というものを模索していかなければならない、そんな時代になってきているようです。

本来、今年度のプログラム委員会としましては、松村会長の今年度、活動目標であります【会長経験者に卓話を頂く】ということを受け、会長経験者の方々の卓話を中心にスケジュールを組んでおりましたが、会長経験者の方々に YouTube で流す 試し卓話 をお願いするわけにもいかず、プログラム委員長の私が、責任上受け持たせて頂く事になったという事です。失言等々ございましたらロータリーの友情を持ってお許し頂ければ幸いです。

さて、私は 2003 年 7 月 30 日に瀬戸 RC に入会させて頂き、今年度で 18 年目になります。ロータリーの活動と致しましては、さほど際立った功績もなく過ぎてきております。しかし、その中でも 2011-12 年度(加藤令吉会長年度)の秋から地区米山記念奨学委員会にお試し参加という形で出向させて頂き、翌年 2012-13 年度(藤井源成会長年度)から正式に出向をさせて頂いています。本年度が最後で9年間の長きにわたりお世話になってきました。そのため…自分が米山記念奨学会にのみに特化した、非常に偏ったロータリアンになってしまったような気もしています。今後は時間をかけて全体を見渡せるロータリアンになれるよう奮闘努力したいと考えています。

しかし…今回はバカの一つ覚え、米山のお話をさせて頂きたいと思えます。タイトルは『コロナ禍における 米山帰国困難者への対応』です。このコロナ禍で、地区米山記念奨学委員会としまして、大変不自由なスタートを切る事になりました。米山奨学事業の基本であります奨学生オリエンテーション(新奨学生の入会式)も出来ず、簡易な書面オリエンテーションでの対応をしたり、春の研修旅行も中止…我々地区委員会メンバーも、奨学生全員と顔合わせすらできてない状況であり、異例中の異例のオンパレードです。その他の事業へ対しても、今現在も大変苦慮して進めています。その中で、コロナが大きく騒がれる直前に一時帰国、その後再来日が出来ない、今現在まだ出来ていない奨学生、全国で 860 人の奨学生中 50 名程おります。その学生さんのことを我々は【帰国困難者】と呼んでい

ますが、その帰国困難者への対応が問題になっていましたし、今もなっています。帰国困難者全員がまさかコロナで空港がロックアウトされるなんて考えもせず出国したものですから、本当にバタバタであります。

当 2760 地区では、我が瀬戸 RC が世話クラブをさせて頂く事になっている韓国からの留学生、イ・チェリムさん(愛知県立芸術大学、大学院修士2年 陶磁器専攻)と、江南 RC さんが世話クラブになって頂く事になっています。カリモフ・ムスリムジョン君というウズベキスタンの学生さん(中部大学・大学院)この2名が帰国困難者でした。

瀬戸クラブの奨学生が絡んでいるという事で、私に当地区の帰国困難者担当責任者になってくれという事で、私が担当することになりました。二人とはメール・LINE・カカオトーク等でかなり緻密なやり取りをし、現状の把握に努め、米山本部・地区委員会、世話クラブと・学校担当者とのやり取りを含め、水面下でいろいろと動いておりましたが、米山本部も地区委員会事務局もテレワークになっていましたので、書類のやり取りなんかの実務は何でもかんでもこちらの仕事になっていました。本来は、奨学生は奨学期間中 年間 60 日の出国は認められており、それを超える場合も状況によっては、相応の手続きをすれば 30 日の延長が認められます。しかしそれ以上は認められず、最悪は奨学生を辞退するという事になってしまいます。失格という事です。米山の奨学期間は4月から翌年の3月までの一年です。ですから今年の場合も4・5月は 60 日の範囲内で認められました。6月は相応の手続きし、延長が認められ何とかクリア出来ました。例会出席義務も緩和、奨学金の振り込みも OK という事です。問題はそれ以降です。都度米山本部の理事会で審議され方針を決めるという事になりました。6月の理事会で7月は、各クラブの例会自体が行われていない現状を見て、出席義務は緩和され、例会出席時に手渡しで渡すはずの奨学金も振り込みでも OK という事になりました。8月にはさすがに米山奨学事業の本来の目的である、世話クラブへ出席しロータリアンと交流する…が出来ないとの理由から、8月から帰国できる月までは半額支給という事に決めました。非常に言いにくい事でしたが、その事も二人には伝えました。その時点で日本政府の方針はコロナ対策として外国からの入国を一切の認めず、それがいつまで続くのかも分からない状態でしたから、大変心配しておりました。

イ・チェリムさんは3月末に病気治療の為、韓国へ一次帰国してしまっていて、日本へ帰りたくても帰れない…と、つい先日まで韓国で悶々とした日々を過ごしておりました。7月の末に日本政府から、8月5日からの韓国からの帰国(来日)が緩和されるというニュースを知り、ひょっとしたらと希望を持ち、すぐ彼女に連絡をしました。彼女もその情報は知っており、即手続きをしようとしていましたが、日本の受入れ空港は成田・羽田・関空のみでセントレアは入っていません。イ・チェリムさんは、14日のソウル→関空便が取れたのですが…関空からの足が無くどうしようか悩んでいたみたいです。私は当初から帰国後二週間は自宅での自粛かホテルでの自粛という事をうすうす知っていましたので、関空であれば迎えに行きあげようという覚悟は決めていたので、彼女にはその旨伝えてありましたが、彼女なりの遠慮でなかなかうまく話が進展しませんでした。その間に、迎えに行く事について私なりに厚生労働省の HP などで下調べはしていましたが、調べているうちに2つの疑問が浮かびました。一つは、家族でもないただの知人が、名古屋から関空まで車で迎えに行くことははたして合法なのか?もう一つは、いくら2回のコロナ検査を陰性でクリアして帰国した帰国者でも、帰国後二週間の自粛期間を設けると、定められた人、と3時間強ではありますが一台の車の中(密封空間)で過ごした場合、迎えに行った人も二週間の自粛期間を設けると言われるのでは?という疑問です。知人で厚生労働省に近い人間がおり、その知人が調べてくれた結果、遠方であっても知人が迎えに行くことは別に違法ではない、迎えに行った人が二週間の自粛期間を設ける必要はありませんと返事をくれました。とりあえずクリア出来ました。そのことを彼女に伝え、何とか彼女も甘える事してくれました。私が関空まで奨学生を迎えに行くという事は地区委員会でも話題に上りまして、米山本部の評議員でもあります神野パストバナーが、青山君関空まで奨学生を迎えに行くってくれるらしいな、あり

がとう。ついでにもう一人の奨学生、たぶん彼は成田だろうから成田も迎えに行ってくれないか？と言われましたが…聞こえないふりをしました。

再来日者は母国を出国する際に PCR 検査を受け、陰性が確認され初めて飛行機に乗れます、そして日本への入国時に再度検査(抗体検査?抗原検査?)を受け、乗客全員の陰性が確認されて初めて入国できます。先ほども言いましたが、帰国後自宅又はホテルで二週間の自粛期間を持たなければいけません。ホテルで自粛期間を過ごす場合、母国を出国する前に日本の空港の近くのホテルを予約し、ホテルまでの移動手段も決め申告しておかなければなりません。公共交通機関・タクシーなどは使用できません。レンタカーかホテルの送迎バスぐらいしかありません。費用はすべて自己負担であります。自宅へ帰る人も、交通手段を事前に自分で確保し、母国を出国する時に申告しなければなりません、同じく公共交通機関・タクシーは NG です。レンタカーか迎えの車だけしか認められておりません。当たり前と言えば当たり前ですが、非常にハードルの高い帰国です。後で聞いた話ですが、入国に際しての検査、入国審査は日本人の帰国者が優先で外国人は後回しだったとの事。若干の不条理を感じました。



8月14日、前年度幹事の刑部君と二人で、関空まで迎えに行きました。午前11時着の便はわかっていたのですが、関空着後、何時に入国できるか見当もつきません、噂では4～5時間待ちの場合もあると聞きました。厚生労働省の HP には入国後、検査員が帰国者を迎えに来た人に引き渡す為に車まで同行する(帰りの足を確認するため)と書いてあり、又、入国検査・入国後、迎えを待てるのは待機所で30分までとも書いてありましたので、いつ入国しても良いように早めに行こうという事になり、瀬戸を少々早めに出ました。事もあろうに

大の大人がよりによって高速道路で道を間違え、若干遠回りになるという紆余曲折を重ね、関空内では駐車場がわからず3周も4周もぐるぐる回り、何とかほぼ目標時間に関空に着き、2～3時間ほど空港で待ちました。刑部君と『ひょっとしたらこのコロナ禍で空港が一番安全かもしれない』などと話しながら待ちました。

彼女がカウンターから出てきて、その姿を見たときには感動すら覚えました。同行するであろう検査員の手前、我々もロータリアンとして恥ずかしくない格好で待たねば…と一応ジャケットを着て、我々は怪しい人物ではありません、いかがわしい者でもありませんアピールをしていたわけですが、出てきた彼女の廻りを見てもその検査員らしき人は見当たりません。チェリムさんに聞きましたところ、数人に1人は実際検査員が付いていったみたいですが私には付いて来ませんでしたとのこと。外国旅行で帰国時に税関でバッグを開けられる人の確率、そんな感覚である事がよくわかりました。よくよく考えてみたら、全員に検査員が付いて行ったら何人の検査員が空港に待機していなきゃいけないのか?という事ですね。若干拍子抜けした感じがありましたが、納得できました。

ゆっくり安全に帰路につき、夕方には無事、彼女を長久手の寮まで送る事が出来、我々も大変安堵しました。結果としてカリモフ君も8月7日に運よくウズベキスタン→成田便に乗る事が出来、無事帰国し、成田のホテルで、自費での2週間の自粛期間を過ごし8月22日に晴れて自由になり、東京見物をして名古屋へ帰って来ました。成田まで迎えに行かずに済み、これも又安堵しました。

二人とも8月に帰国という事で満額の奨学金が振り込まれることになりました。本来、米山奨学金は、例会出席時の手渡しが原則ですが、このコロナ禍に於いて例会出席義務を緩和し、振込でも可…など、米山本部の柔軟なご対応には感謝します。

しかし、チェリムさん、カリモフ君にとって、本来は4月から一年間、世話クラブのメンバーとの交流の機会があったはずですが、二人とも9月からと半分近い期間が削られてしまいました。若干期間は短くなりましたが、その分、濃いコミュニケーションを取ってあげて頂くよう、江南 RC のカウンセラー杉浦さんにもお願いしましたが、瀬戸 RC 会員の皆様にもお願いしたいと思っております。

長々とお話させて頂きました。ご清聴ありがとうございました。



ニコボックス報告

2020年9月30日例会

瀬戸市役所 経営戦略部 情報政策課 課長 梶田耕平様、係長 岡田克也様をお招きして。会長 松村晋也、幹事 加藤一夫 青山稔君の卓話を楽しみにしています。会長 松村晋也、幹事 加藤一夫 卓話で五感を汚します。青山稔

私そして家内ともども誕生日をお祝い頂きありがとうございます。増岡錦也 誕生日をお祝い頂きありがとうございます。加藤眞言 しばらくお休みをしております、すいませんでした。見ての通り、大変元気にやっておりました。増岡錦也 名誉会員の元気な顔を見せて頂き安心しました。佐野一

青山君、イケメンですね。加藤定江

自分の卓話を自分で観るという地獄に落ちるところ、のっぴきならぬ用事が入り早退します。青山稔君の卓話が観れず残念です。青山稔 早退します。梶野輝雄

所用の為、早退します。卓話が聞けず残念です。青山貴彦

青山稔君の卓話を楽しみにしています!

井上博、大竹一義、大原道夫、岡村肇、加藤五津美、加藤克己、加藤恵子、加藤定江、加藤捷、加藤眞言、加藤太伸、加藤陽一、亀井勝、小池芳樹、小林稔、佐野一二、鈴木政成、高橋信郎、田中靖達、玉井徹、寺田悟、平松啓、牧オサム、水野和郎、山本英雄、與儀武蔵

9月の誕生日おめでとございます!

高橋信郎